

東京冀北会会報

東京冀北

25周年記念

第25号



東京掛中・掛西同窓会会報

第24回東京冀北会総会・懇親会会計報告 (2012.11.7)

出席者	会員 78名	
	来賓 8名 (掛西高等学校校長他7名)	
	計 86名	
有料出席者	80名 (560,000円)	懇親会費
当日年会費納入	47名 (131,000円)	一般会計 取込扱い
祝儀	5件 (掛西高校長、同窓会会長、同窓会事務局長、 静岡冀北会長、浜松冀北会長)	
寄贈品	2件 赤岩 短棒 (高10)、竹原繁男様 (高10)	
収入の部		
	総会参加費 (7,000円×80名)	560,000
	祝儀	50,000
	計	610,000円(A)
支出の部		
	パーティー費 (サミ高北・看板費含む)	443,050
	諸経費 (駅品、写真、茶費みやげ等)	46,500
	雑費 (宅配便 コピー)	4,614
	計	494,233円(B)

差 収 入 (A) 610,000 - (B) 494,233 = **115,767円**
(全額が115,767円が 一般会計に繰り入れ)

平成24年11月22日

東京冀北会 事務局長 山崎 進

平成24年度東京冀北会収支報告

平成24年4月1日～平成25年3月31日

(収入)	前年度繰越金	466,283
	年会費 (郵便振替分)	546,000 (182名)
	・ (銀行振込分)	18,000 (6名)
	・ (現金納入分)	141,000 (47名)
	総会懇親会参加費	560,000 (80名)
	役員・幹事会費 (個人負担)	198,000 (53名)
	雑収入 (祝儀・預金利息)	50,001
	計	1,979,284円(A)
(支出)	印刷費 (総会通知、会報、宛名シール)	封入作業費他)
		488,436
	総会通知郵送費 (1,373通)	109,840
	総会返信後納費 (314通)	20,410 *1
	総会・懇親会費	494,233
	会合費 (幹事会・役員会等)	262,900 *2
	出張・祝儀費 (掛川総会出席等)	56,000
	通信物流費 (郵便、宅配便等)	28,540
	事務費 (事務用品、管理費等)	81,253
	計	1,541,606円(B)

(収支残高) (A - B) = **437,678円** (次年度繰越金)

*1 総会出席は定員定数(100名)以内
*2 役員・幹事会費は個人負担 (幹事 4,000×53名) 198,000円を徴収
資金管理 八千代米本郵便局 (振替口座) 404,865
みずほ銀行掛川支店 (普通預金) 6,660
現金 26,153
計 437,678円

会計監査 竹原 繁男 (高16回卒)
会計監査 内田 金男 (高22回卒)

校歌

作詞 藤井金吾
作曲 堀 福寿

一、岩根ここしき天守台
その麓にぞわが校は
基定めて逆川の
栄え行くこそ榮しけれ

二、雨降り嵐すきぶとも
指してや行かむ小笠山
希望の懸を射るまでは
めげず挽まず屈折れず

六、やがてまことの熟なし
誉れは栄ゆる百々錦
飾りて花の色そへよ
大和島根の山桜



編集後記

平成とともに歩き始めた東京冀北会も
四半世紀を無事経過し、二十五周年を迎えることが出来ました。先ずはおめでとうと言いたい。一口に二十五年長いようで短いものであった。この間初代会長岡本甲子男氏、二代会長大貫謙雄氏、三代会長杉田隆氏(故人)、四代会長河原崎守彦氏、そして現五代会長中山紀子氏に引き継がれてきました。いずれの方々も伝統ある掛中・掛西の灯を絶やすことなく後世に残すために頑張っていたきました。ここに厚く御礼申し上げます。

全支部の中でも、首都東京を基盤にする東京冀北会は会員数も約千五百名を有し、人材も豊富であり、全国的にも誇れる同窓会と自負しています。諸先輩の築かれたこの伝統を、次の世代にどう引き継ぐかが今後の最大の課題です。継続は力をもつと、更に更なる発展を望みたいものです。(了記)

発行日 平成二十五年十一月九日
発行者 東京冀北会 中山紀子
印刷 物文洋社

二十五周年に寄せて



東京冀北会会長 中山 紀子 (高十四回卒)

東京冀北会が今年で二十五周年を迎えられますことは、発足以来岡本元会長様をはじめ歴代の会長様や多くの方々のご協力によって今日に至りましたことに、心より感謝申し上げます。毎年新しい出会いがありました。各分野でご活躍されていらっしゃる先輩方や後輩たちの多さに驚かされ、改めて掛西高を卒業したことを誇りに思っています。

さて、これからのようにして三十周年、四十周年につなげていけばよいのでしょうか？若い世代に自然に引き継いでもらうためには、どのような工夫が必要なのかいろいろ知恵を絞っていかねばなりません。

先般、2020年の東京オリンピックが決まり日本中がフイーバーしました。私自身多少招致活動に関係したことで正直なところほっとしています。1964年の東京オリンピックを経験した私たち世代の共通の思い出を、今の子ども達にもぜひ味わって欲しいと願っています。子ども達をゲーム等に依存させないために、スポー

ツの力で実際に汗をかく楽しさを体得してもらうことが大切です。そのためにはいつでも気軽に身体を動かすことができるスポーツを取り巻く環境整備が必須です。

また生涯スポーツの必要性が謳われている今日、介護予防の観点からも特別な人が一生懸命にスポーツをするというのではなく、すべての国民が食事や睡眠などと同じ目線で日常生活にスポーツ（身体運動）が存在することが大切と思われず。できるだけ早くそのような世の中になるように、私自身これからは生涯スポーツに最適なバドミントンを通して地道な活動を続けていこうと思っております。

祝、二十五周年



東京冀北会初代会長 岡 本 甲子男
(中二十八回卒)

歳月の流れ、時勢の移ろい、二十五周年を顧みて感慨深いものがあります。

平成元年、東京冀北会は発足しました。

型銀メダル、1500メートル自由形銅メダルで「前畑ガンバレ！」の日本水泳陣相次ぐ活躍に私たちは興奮し、また自信を得た記憶は今も鮮烈です。

七年後の日本はアベノミックスの成果を挙げて世界に向かい積極的な役割を担う国に脱皮しているでしょう。更に女性の活力発揮が求められる時代です。

既に当会はスポーツ界のリーダー中山紀子さん（高十四回卒）が新会長です。
夢多い新時代にふさわしい活動を期待します。

最後に、発足以来ご尽力頂き今は亡き先輩、会員諸氏の「冥福を祈ります」。

冀北会という名前



東京冀北会二代会長 大 貫 満 雄
(中四十一回卒)

掛中・掛西校の同窓会を冀北会というのは、どういう由来によるのであろうか。それは初代校長の岡田良一郎が「冀北学舎」という私塾を開設しており、その「冀北」

折りしも日本はバブル景気の絶頂にあったが、その二、三年後、バブルは弾けて長い不況沈滞に落ち込み、更に東日本大震災の惨禍に遭って社会不安は募るばかりでした。昨年第二次安倍政権が発足して大胆な金融緩和による経済の活性化を基に社会、政治、外交の新時代を築く意欲と希望が漸く盛り上がりつつ来ました。

平成二十五年、二十五周年を迎えた当会は、その発足に当たって石川嘉延さん（当時自治省）の主導、松本信孝先輩（中二十四回卒）の指導を得ながら十数名の有志が「永続する意欲と意義ある会合でなければ・・・」と熱心に議論を重ねて一年余、漸く同志六十名による準備委員会開催に至った事を今は懐かしく想起します。

創立後は歴代会長、役員、幹事の熱意と事務局の努力、県や母校の協力得て着実に発展しました。女性会員も年を逐って増加し前途をされるのは嬉しく存じます。

この間に石川さんは知事として静岡県政四期を立派に勤められ、大貫満雄さん（二代目会長）は文筆活動を通じて郷土の歴史や岡田家三代、大日本報徳会など文教発信地としての掛川を語り認識や絆を深めてくれました。さて、2020年待望の東京オリンピックを再び迎えます。

1900年 掛川中学開校

1936年（昭和十一年）のベルリンオリンピックでは鶴藤俊平選手（中三十二回卒）が400メートル自由

に由来しているのである。

明治の初期、小学校はスタートしていたが、中学校はまだ出来ていなかった。そこで岡田良一郎は明治十年に倉真に冀北学舎という私塾を開き、小学校卒業後の青少年の教育に当たっていたのである。冀北という名前をつけたのは、冀北は中国の名馬の産地であるので、私塾からも名馬（人材）が多く輩出するのを願って「冀北学舎」と名づけたのである。

明治政府は小学校につづいて中学校の設立も必要というところで、静岡県では明治十三年（一八八〇）に、静岡、浜松、沼津、掛川、韭山の五カ所に中学校を設立した。そして掛川中学校の校長には、掛川地区で一番信望が高い人材ということで、冀北学舎を開いている岡田良一郎が選ばれ、掛川中学校の初代校長に就任したのである。そして掛川中学校の運営も軌道に乗ってきたので、明治十七年に冀北学舎は閉鎖した。

しかしそれから二年経った明治十九年に、異変が起った。静岡県に五つの中学校は多いということで、二校が減らされたのである。すなわち掛川中学校は浜松中学校へ統合され、韭山中学校は沼津中学校へ統合され、静岡、浜松、沼津中学校の三校が残ったのである。掛川中学校の寿命は五年六カ月であった。

しかし、やはり掛川中学校も韭山中学校も必要だということ、十五年後の明治三十四年に再び両校は復活

し、現在に至っているのである。したがって掛中・掛西校の創立は明治三十四年となっているが、その前に、岡田良一郎を校長とする掛川中学校があったのである。したがって岡田良一郎は初代校長というよりも、創立校長といった方がふさわしいのかもしれない。

岡田良一郎が校長を勤めたのはこの初期の五年六カ月であったが、彼の生涯の本業はもつと別にあつた。それは掛川市にある大日本報徳社の二代目社長として、二宮尊徳の報徳思想の全国的普及運動であつた。

報徳精神といえは、現代で言えば経済倫理精神である。したがって掛中・掛西の教育の底には、そうした精神が一貫して流れているわけであり、ひいてはそれが冀北会へも伝わっているわけである。

今や日本だけでなく、世界的に、政治経済は混乱の極みにあるが、それを善導できるのは、報徳精神を以て他により得ないのではあるまいか。そう考えるとわが東京冀北会にも、その力を發揮するチャンスが来ているのではないかと思われる。

祝 二十五周年、思い出すことなど



東京冀北会四代会長 河原崎 守彦
(高九回卒)

東京冀北会が二十五周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

私も、その半分以上の期間に亘り、執行部に加えて頂いておりましたので、感慨一入です。その間、歴代の会長を初めとする諸先輩の方々、事務局を担当して頂き共に汗を流した方々、そして幹事や同級生の方々など多くの会員の皆様から暖かいご指導、ご協力を頂きましたことを深く感謝申し上げます。そこで、その間の思い出の幾つかを綴ってみました。

まず思い出すのは、平成十一年までの初期の頃のことです。当時は、幹事会や総会をする会場を決めることも一苦労でしたが、それを含めて何かと相談することが多く、年に三、四回は少人数の執行部会を開いていたように思います。まず渋谷の居酒屋で打ち合わせを行い、その後杉田さん、落合さん、鈴木さん等とカラオケに通ったのも楽しい思い出です。

活動の輪を広げるためにゴルフ会を始めたのは平成九

雑感2題

角 皆 静 男 (高九回卒)

年五月のことでしたが、その後十八年六月までの間に十七回のコンペが行われました。このうち優勝回数三回が遠藤さん、二回が神谷さん、小関さん、竹原さんですが、ちなみに一位、二位、三位をそれぞれ3、2、1ポイントとして計算してみますと、最高は竹原さんの17ポイント、二位は遠藤さんの12ポイント、三位は神谷さんの10ポイントとなり、高十六回卒生の強さが際立っているようです。

全期間を通して幹事会でいつも問題とされたのは、若い方々に参加して頂くためにはどうすれば良いか、そのために会のメリットを高める方法はないかということでした。

しかし、今頃になって弁解することはお見苦しいかも知れませんが、同窓会のような共同社会で会のメリットを明確な形で高めることは、容易なことではありません。もとより、執行部には今後とも、中山会長のご指導の下、会のメリットを高める努力を続けて頂きたいのですが、併せて会員の皆様にも、経済的メリットの追求に集中している日々の暮らしを離れて、お知り合いの方々と連れ合ってお気軽に同窓会にお出掛け頂き、ご自分の交流の輪を広げ、そして深めるメリットを実感して頂けたら、と願っております。

そして会員の皆様の熱意によって、東京冀北会が、二十五周年を通過点として更に継続、発展されますよう、切にお祈り致しております。

福島原発が作ったトリチウム汚染水の問題
原発が作った放射能で最も多量なのがトリチウムで、これが廃水貯蔵タンクより漏れ、汚染水が流れ出し、問題になっている。しかし、トリチウムのベータ線は皮膚を通過できず、周辺にある大量の水と混ざってしまうので、環境に出たこれが障害を起こした例はない。

最近頻繁に現れる異常気象

冬は大雪、夏は猛暑、そして竜巻などの異常気象の原因をたどるとすべて二酸化炭素に行き着く。大気中の二酸化炭素の平均濃度は現世の人が経験したことのない400ppmになろうとしている。その濃度増で、赤外線吸収効果、温室効果増による気温上昇の直接的効果だけでなく、表面海水温上昇による飽和水蒸気圧増で豪雨増、水蒸気が凝縮する際のエネルギーで強大な暴風や台風を増やし、陸や海の表層を変え、生態系をも変えるようになる。

歴史の岐路

大村 光助 (高五回卒)

私が国民学校五年であつた昭和二十年八月十五日、日本は連合国に降伏をして三年八ヶ月余りに及んだ太平洋戦争は終つた。

それまでは天皇のために命を捧げることが、神国日本に生まれて来た臣民の使命であることを固く信じ、全身全霊を打ち込んで頑張つて来た国民は、この敗戦によつて生きる目的と意味を見失つてしまつた。

そのような社会の混乱と荒廃の中で虚脱状態に陥つていた私たちの心に、一筋の明るい救いの灯を点してくれたもの、それが翌年秋に公布された新憲法(現憲法)であつた。

そこにはこの悲惨な過ちを二度と繰り返さないために、わが国は永久に戦争を放棄し、絶対の平和主義国家として再出発する固い決意が高らかに宣言されていた。

敗戦に打ちひしかれていた国民の心に、この憲法はどれ程大きな励ましと希望と勇気を与えてくれたことであらう。

あれから六十八年、この憲法を反故にしてしまおうとの動きが日増しに強まって来ているこの動きを、純粹な使命感に燃えて散つていった特攻隊員や、原爆で非業の死を遂げた人々や、夫やわが子を涙ながらに戦場へ送り出さねばならなかつた婦人達が、どのような想いで見つめているであろうか。果たして望んでいるだろうか。私達は今、重大な歴史の岐路に立たされている。

大都會の街、東京でひとりぼっちで？生き抜いて来た、「もう二度と変える事が出来ない波瀾万丈の人生」を振り返つて、「まだ無限に変える事が出来る」これからの人生の夢を語つてみようと思ひます。少々長い文章になりますが、お付き合い下さい。

二十歳で独立して四十年後の現在、設計デザイン事務所所&東京、札幌、掛川に飲食店&東京の渋谷に六階建てビルの経営をしています。自宅から自転車通勤、ほぼ毎日渋谷駅前のスクランブル交差点を猛暑の中、半ズボンとTシャツ姿で年甲斐もなくかつ飛ばしています。最近やつと月に二〜三度取れる休日は、素敵な連れ合いと高層ビルの谷間から昇る朝日と富士山の後ろに沈む夕日が見られるベランダで家庭菜園をして、美味しい生活を健康管理されて暮らしています。来年は週休二日と再来年は三日と少しずつ休日を増やし六十五歳になつたら、今の仕事の業務を全てスタッフに継承するつもりです。仕事から離れ、引き継いだスタッフからのお小遣いと年金で利害関係のストレスがない暮らしを終わの住処と決めます。それまでは最終行動責任者として、スタッフや連れ合いに感謝しつつ、まだまだ頑張ります。「借金は将来の貯金」まだまだ頑張りたくないけません。

まぐれで掛川西校に入学出来たビートルズエイジの僕は、菊川市富田で四人兄弟の次男として生まれた。父は

ひとりぼっち



落合 潤一 (高十三回卒)

やっばり、ひとりぼっちだと思います・・・でも孤独ではありません。

他人の口から「友達」とか「親友」って出る言葉にすごく敏感です。他人から僕を見たら絶対に？そうは見えないと思ひますが、知人は多いけど友人は少なく・・・いないと言つても良いかもしれせん。親友なんて、当然 皆無です。だから、ひとりぼっちだと？思ふのかもしれません。だから、余計に人との繋がりや絆、信頼関係が大切だと思つています。還暦になつた今、この原稿の依頼を受けた機に菊川市富田育ちの田舎者が見知らぬ

戦争で負傷した右手の薬指が痛々しい程曲がつていた。終戦後菊川に戻ると、出生時に元氣に見送つてくれた両親は病死、弟は空襲で死亡しており、父は二十二歳で天涯孤独のひとりぼっちの人生を歩む事になる。後に国鉄職員となり家業の雑貨屋をしながら、菊川町会議員でPTAの会長もしていた。四年前に八十八歳で他界した。ひとつ願ひが叶うのだったら、もう一度オヤジに会つて語り合いたい。今も九十二歳で健在の母も、雑貨屋を正月も休む事なく毎日働き四人の子供を育てた。今でも迷惑をかけっぱなしの母親の口癖は「人に迷惑かけるな・・・」だった。二人とも仕事や家業などに忙しくて子供の教育や将来の事など構う余裕などなく、良く言えば「自由放任」だった。尊敬する姉が「両親がもう少し教育熱心だったら、私の人生は変わつていた・・・」と言つていた。その姉は菊川市会議員を初の女性として四期勤めた。絵と運動が得意で作文が大の苦手だった僕は将来、寿司屋の板前になりたかつた小学校の卒業文集に書いてある。通信簿にはいつも落ち着きのない子と書かれ、学校から帰ると山の中につつた「秘密基地」で、いろんな妄想して野山をかけ回り回つていた山猿だった。新しい物に興味を持ち、新しい情報を聞き出す為に転校生と仲良くした。中学生になるとテニス部入り、人と違つたサーブを考え、先手必勝を狙つた練習をしていた。美術の授業で、画用紙を真っ黒に塗り、真っ赤なバ

ラの絵を書いて皆をびつくりさせた。仲間とフオークソンググループを結成、常に人と違った事をして存在感をアピールしていた。特別学級の生徒達と仲が良かった。

掛川西高校に入学するとクラス全員が野郎だった。中庭越しに見える男女共学クラスが羨ましくて廊下を歩く女生徒達がアイドルのようだった。クラブは球場の片隅で野球部の顔色を伺って練習をしていた初代サッカー部に入学した。サッカーの練習は本当にきつかった、誰かが怠慢なプレーをするとかささず鈴木昌則先生から笛の台図と共に「ダツシユ」と言う号令が出る。全員センターラインに並びゴールラインまで全速力でダツシユ、今度はセンターラインまでダツシユ、何回かそのダツシユを繰り返した後、一番になった者からダツシユから逃れる事ができる。体力的にきつい事があるとサッカーの「ダツシユ」を思い出す。今まで生きて来て、あの「ダツシユ」程苦しい経験をした事はない。夏合宿の特訓で練習が辛くて、突然いなくなる部員が毎年出た。そんなきつい練習をしても、試合ではいつも負けてばかり、勝った記憶はほとんどない。今年の夏、同窓会で久しぶりに先生にお会いした時は嬉しくて思わず「マサノリ」と大きな声で叫んだ。

二年生になると全クラスが男女混合クラスになった。ついに憧れのアイドル達とのドラマが始まった。バイクの免許も取り行動範囲が広がった。サッカーの試合、ア強、テストが終わると徹夜麻雀、夜な夜なバイクで走り回った、交換日記も書いた。今となっては懐かしい思い出ばかりである。高校時代で一番楽しい時間を過ごした。

三年生になると、今までの楽しい状況は一変、ひとりぼっちになった。僕のクラスだけは二年生と同じ二階で、悪ガキ達はバラバラにさせられた、誰一人以前の仲間はいなかった。「掛西紛争」の後で、学校側は問題がある生徒達を連ませないようにした。担任の中道充彦先生からは「落合は皆の勉強のジャマをするな」と英語なまりで言われた。僕の席は教室の一番後ろ、白いゴワゴワした厚手の綿のカーテンが風に揺られて頬に当たる窓側が指定席だった。いつか自分の才能を活かし、早くここから抜け出して先生や同級生達を見返してやるぞと、窓からは見えない未来を夢見ていました。皆が大学受験で苦しんでいる中、大学に行き又嫌いな勉強するのはコリコリ、早く世の中に出たかった僕は先生にも親にも相談せず、大学受験はしないで専門学校で技術を身につけてデザインになりたいと進路を決めた。冬休みは浜松にあった松菱デパートでデザインの勉強する為にデイスブレイのアルバイトをしていた。高校で勉強する事、大学に行く事の意味をもっと理解していたら、勉強も頑張ったかな？と思う、そこを先生には僕にわかるように教えて欲しかった。高校時代の仲間達と立ち上げた飲み会「ヤラー会」は早十二年経ち毎回、昔話で花が咲きます。

アイドルだった彼女とのデート、夏休みになると浄化槽の穴堀、ウエイターのアルバイトも常にバイクで行動した。アルバイトしたお金を貯めて買ったブランド品の黒のズボンと白のシャツを着て登校した。上級生に目をつけられ「帽子をかぶれ」と無帽の三年生達に閉まれ注意された。不条理な事を言われ納得が行かず、三年生のクラスに一人で殴り込みに行った。他の学校の上級生からも目をつけられた。サッカーの練習が終わると掛川城に呼び出された、卒業した大学生からは「俺の女に手を出すな」と脅された。秋の卒業旅行の時、仲間達と旅館で飲酒した事が発覚、全員一週間の謹慎。当時肩まであるマツシユルームカットを茶色に染めていた戸塚君から「潤一が旅館で布団に吐いたせいだ・・・」と酒を飲むたびに言われる。僕は「その酒を高校生に売った旅館のせいだ・・・悪いのは旅館のほうだ」と反論する。戸塚君は当時からお酒を嗜み、愛煙家、愛車のダツクスに僕を後ろに乗せて教室の廊下を走り回って謹慎四回トッブで卒業した。喫煙で二度目の謹慎中、外出禁止だった戸塚君を仲間と励まそうと深夜の非剣山ツアーを計画した。放課後に戸塚君の家にあつたりヤカーを竹で骨組みして、幌をかけて改造。トラクターで皆が乗ったリヤカーを牽引して非剣山を目指して夜出発、非剣山で酒盛りして労をねぎらった。静岡県一周ツーリング、車で深夜名古屋まで店員オーバーでドライブ、深夜放送を聞きながらテスト勉

専門学校に入ると、腰まで髪を伸ばし、過激なファッションで渋谷の学校に通った弁当男子だった。自分がやりたい事が出来る為の勉強だと思い、無遅刻無欠席、課題は全部提出、ひたすらデザインの勉強に励み、人と違つた事をして首席で卒業した。卒業後の進路には僕にはいくつか選択肢があつた。講師の事務所、同級生から紹介された事務所、学校にきた求人案内の会社など結局、同級生の紹介があつた原宿にある小さな面白そうなデザイン事務所就職した。

事務所には皆より一時間早く出社して仕事をした。自分の手で書いた図面や絵が現実の形になる喜びを感じた。全て任せられた初めての現場で予算オーバー、どうしても使いたいドアがあつた。「足りない分は給料から引いて欲しい」と社長に懇願して取付けた。レセプションの時、自分が丹精込めて造り上げた空間にお客が入って来る事が嫌だった、誰にも足を踏み入れて欲しくなかった。それほど気持ちを含めた作品になった。その会社は毎晩、歌舞伎町で酒盛り、会社は大丈夫かな？と思った。その心配は現実のものとなり、経営に行詰り倒産。今度は新聞の募集をみて応募した会社に就職、その会社も入社して早々に倒産、継続していた仕事もあり、その残党が新しく作った会社に入つたがすぐに経営に行詰り解散。卒業して一年足らずで三回の倒産や解散、人間不信になった。その最悪な状況が僕の人生を大きく変化させる事になった。

仕事もないのに独立、義兄に借金して渋谷に小さな事務所を借り、昼は設計事務所として夜はバーとして、内装は自分の手で仕上げて開店させた。寝る間を惜しんで必死に働いた。その店に料理を出す為に料理学校に通い、調理師の免許を取った。料理学校には八年通い続け家庭料理師範の免許を取得、同年に建築士の免許も取得した。二十七歳の時、その師範の免許をいかして、最年少の校長として料理学校を開校した。料理を教え、料理本も出版した。当時副校長だった浜内千波が現在、テレビなどで活躍している。設計の仕事ではアメリカ料理とバーボンの店などの飲食店、上智大学の学食、東京デザイナー学院、ITバブル時代にはデジタルハリウッドお茶の水校初め全国八校、渋谷駅前に建つQフロントビルにある渋谷校内ではカフェ経営もした。ミュージシャン浜田省吾さん、スピッツの事務所や練習スタジオ、サツカールのキングこと三浦知良さんの事務所、青山にある安藤忠雄さんが設計した建物の中に造ったレストラン、ツタヤの社長のご自宅、新しい建築工法を開発して特許を取り都内に二十棟程建築した、その工法で代官山に建築した「キャッスル代官山」ビルが建つ道路がキャッスル通りと命名された、新業態「ブルバー」の仕掛人として全国、海外はサイパンまで二百店舗程の開店に携わり、若者達の文化も創った。当時テレビや雑誌に時代の寵児として紹介された。バブル景気と共に「メリーゴーランド

を巡って全国各地にいる知人に会って沖縄に戻る、そんな老後の人生を夢見ています。

この原稿依頼を引き受ける事で今迄の人生を振り返り、やり残した事や今後の人生を考えることができました。このような機会を与えて頂いた、東京黄北会の中山紀子会長、山崎進事務局長に感謝いたします。諸先輩方が築き上げた伝統ある掛川西高等学校の卒業生としてこれからも「ひとりぼっち？」で頑張つて行きたいと思っています。

何者でもなかった



伊藤 紀美江 (高二三回卒)

さる八月十七日に掛川中学・掛川西高等学校の同窓会、総会が行われた。二十三回卒は還暦、これが全員参加の同窓会の最後になる。

十年前の同窓会以来ずっと会っていない懐かしいあの顔この顔、いっぺんにタイムスリップしたようだった。長いブランクを感じることなく、当時と同じように話せ

のあるレストラン「フィットネスクラグ」マルチメディア「スクール」次々と新業態の商業施設を企画開発して開店させた。地元の菊川でもレストランや美容院、アメリカに渡りロサンゼルスでイベントや学校などの設計もした。専門学校の「パンタンデザイン研究所」で講師を十年間勤め表彰された。経営してきた店もカフェ、BAR、イタリアンレストラン、沖縄料理店、アラビア料理店、割烹、ライブハウス、アンティークSHOP、レンタルビデオ店など多岐にわたる店の経営をして来た。学校を卒業してからの四十年間デザイナーとして必要とされ、多くの人に出会って数多くの飲食店、商業施設、事務所、住宅などの作品を産み出して来た。そして自分でやりたい事は責任の取れる範囲で大抵やってきた、本当に波瀾万丈の人生だった。

現在は渋谷の自社ビルの四階の事務所、企画や設計の仕事しながら、一階にある飲食店でも店のスタッフとして働いています。将来大好きな沖縄の西海岸に「基地」を作り、沈む夕日を見て暮らす為に、最近船舶一級の免許を取得しました。基地には、今までお世話になった人や知人、スタッフなどがいつでも、いつまでもいられるようなゲストルームがあり、ゴルフコースを毎年1ホールずつ自分で造る。マリンスポーツ、ゴルフ、僕が作る手料理を楽しんでもらって、船で素晴らしい離島を案内する。一年一回は船で日本を一周、日本各地の港町

るのは同級生ならでは。高校時代に交流がなかった人でも気軽に話せるのも嬉しい。

「ちっとも変わらないね〜！」と声をかけ合うのは女子（敢えてこう言わせていただく）。一方、男子は昔の面影のある人もいれば全く変わってしまった人も。十年の間には、大病を患いながらも見事に復活した人も、残念ながら鬼籍に入ってしまった人も。つくづく時の流れを感じる。

同窓会では久しぶりに校歌も歌った。

「岩根（い）しき天台 その麓にぞ 我が校は…」

掛川城址は幼い頃からの遊び場でもあり、高校時代は桜の季節に少し早起きして、ここを通り抜けて学校に行くのが楽しみだった。ここで初デートした人も多かったのではないだろうか。ただ、あの階段は過酷なトレーニングの場にもなったけれど。

掛西に入学して驚いたのは校則がほとんどないことだった。中学では髪型や服装をはじめ帰宅後の行動に至るまで細かい校則があり窮屈な思いでしたが、高校では生徒個人の判断に任されていた。そんな自由な校風がちよつと自慢であり好きだった。

また、高二からの選択授業が今にして思えば画期的だった。先生方の得意分野に基づいて用意された講座数は多く、少人数で受けられて先生との距離が近くに感じられた。一つのテーマを深く掘り下げて学ぶことは通常

授業では考えられないこと、しかも自分が選んだ講座と
いうこともあり一番好きな授業だった。先生方もいつも
以上に張り切っておられたように思う。教材を携えて、
あちこちの教室に散らばっていくのは大学を彷彿させて
楽しかった。もっとも当時は大学がどんなところかよく
わからなかったけれど、それにしても、この選択授業は
いつから無くなってしまったのだろうか。

高校生は大人ではない、といつて子どもでもない、な
んとも中途半端な年頃だ。だれもが何者でもない。この
先いったい何者になるのか皆目見当もつかず、必死にも
がいていた時期でもある。思春期の真つただ中であつて、
今まで生きてきて溜まった澱（オリ）のようなものが自
分の中で混ざり合いマグマのようになって、ときに噴出
する。自分ではどうにも制御できなくなり喜怒哀楽の振
幅も限りなく大きくなる。

ある意味、純粋で多感なこの時期は「大人の論理」を
受け入れられないことも多々あつた。私自身、そんなこ
んなで家族と衝突することもあつた。今にして思えば反
抗期だったのだろう。そんな心のモヤモヤを吹き飛ばし
てくれたのはバドミントンだった。シャトルを追いかけ
ているときは解放された気分になつた。思春期にスポー
ツを推奨するのは、こういうことなのだと思えばせなが
ら納得。偉大な先輩を輩出した部故のブレッツシャーも感
じていたが、コーチなしで精一杯やったという達成感ほ
ろうか。

て悩んでいたあの頃の私が、今の私を見たらどう思うだ
ろうか。

世代交代を二年後に控えて



山村 十吉 (高十三回卒)

今、私は二年四か月後に追つた世代交代に向けて構想
を巡らせています。

平成七年九月に前の会社から独立し、会計事務所コン
サルディングを経て、医療コンサルディングへ転換、介
護保険制度スタートとクリニック新規開業ラッシュプー
ムに乗り、顧客を増やし、製薬メーカーからの講演依頼
から病院コンサルディング、介護事業コンサルティン
グ、介護施設コンサルディングの依頼が多くなり、事業
拡大に至つた。私の医療に対する考え方として地域密着
医療が基本と考えているため、地域は首都圏を中心に行
う事を原則にしている。全国からの依頼もあるが地域性
が把握出来ないため首都圏以外は断っている。人数的に
も十人程度の会社のため全国的に人を割くことが出来な

ある。なにより、よき仲間にも恵まれたことは私にとつて
かけがいのない財産になつている。

このような高校生活を送っていたが、一学年上の有志
が立ち上げた「掛西反戦会議」は衝撃的だった。直接活
動に関わることはなかったが、社会問題や政治に目を向
けるきっかけとなつた。一連の掛西紛争は七名の退学処
分という後味の悪い幕切れとなつたが、何か釈然としな
いものが残つた。高校生が大人に対して何を言つても、
聞き入れてもらえないような不信感と絶望感を持つた。
その後、学校全体が無気力感と脱力感に覆われて、覇気
というものが感じられなくなった。私自身も部活引退後
は受験勉強に集中できなかつたが、それでも大学に入つ
て親元から離れることを目標にして日々を送っていた。
私たちの学年は現役進学率が例年より低かつたような気
がする。奇しくも、同窓会会報「冀北」二十九号で、当
時退学処分になつた七名が東京の私立高に復学していた
ことを四十数年ぶりに知り胸をなでおろした。

私は外国人に日本語を教える仕事をしているが、この
資格取得のための勉強を五十代になつてから始めた。日
本史や古文に関する知識も要求される受験勉強には本当
に苦勞させられた。我が高校生活に悔いなしと言いたい
ところだが、もつとしっかり勉強しておけばよかつたと
後悔しきり。

何者にもなれそうで、何者にもなれないような気がし
い事も理由の一つでもある。今まで弊社は独自のコンサ
ルディング手法を開発し、精度を高め、コンサルティン
グのきめの細かさ、その内容が各医療機関から評価を得
ていると考えている。また、薬局のコンサルディングと
講演依頼から薬局経営をすれば薬局のことは解るだろう
と想い、平成十六年六月に薬局のための法人を設立、東
京と千葉に現在六店舗を構えるまでになつた。薬局経営
の基本方針として2025年首都圏における六十五歳以
上人口は倍増するため、外来処方だけの薬局ではなく訪
問する薬局として活動していく方針である。

今月で丸十八年を迎えグループ全体の社員数は五十人
を超え、スタート時三人から見れば夢のような社員数に
なつたと思つている。

現在会社は三社あるがメインの医療コンサルディング
を分割し、長年苦勞を共にして来た部下二人に託し、私
は薬局経営のみに専念し、いづれ薬局経営を娘に引き継
ぐ事を決めています。

三十三歳で十年務めた大手コンピュータ会社を辞め
て十年毎に三段階の目標設定をし、四十三歳までは経営
の勉強をし、五十三歳までは経営者としてより充実を
し、六十三歳までには後継者作りを行うという三十年計画
の残り二年余りに差し掛かろうとしています。掛川西高
時代目立たなかつた私でしたが、伝統ある西高の重みを
背負っていることをひしひしと感じています。

●東京翼北通信●

増田 泰次 中二十九回(代筆)

伊藤 太平 中四十一回
無病息災元氣ですが所用のため止むな
く欠席します。皆様によろしく。

中道 正定 中四十一回
胃がんで治療中であり足関節が患って
長時間の歩行に支障あり残念ながら欠
席させていただきます。

大井 利作 中四十二回
幹事諸君ご苦労様です。お竹折り深謝
致します。体調悪く外出は出来ないので
欠席いたします。ご盛衰を祈ります。

村松 孝一 中四十四回
いつも、なにかとお世話になります。
体調が不良につき欠席させていただきます。

等原 久嗣 中三十三回
今まで連絡いただき一回も出席せず申
訳ありません。腰痛があり腰痛中です。
掛川で実施する同級会には出席したいと
思っています。

内藤 芳男 高三回
私も歩みを進め、外観は健康そうに見
えますが、体の各部の故障に加え、物忘
れが進み悩みの日々を送っています。

落合 曉雄 高四回
小生、年齢相応に老人仲間と開暮など
して過ごしています。

川島 常雄 高四回
お陰様で元気に暮らしております。趣
味と自治会のお手伝いで過ごし、都心へ
の、人行動は周辺がしんどいします。

後藤 陽一 高四回
ご案内いただき有難うございます。ご
期待に答えず心苦しく思っています。

武内 恭久 高四回
田井西物象部四十九年生で、毎年NHK
技術研究所、日本科学未来館、先端技
術館と新宿末広亭、国立科学博物館と倫
理形勢でスカイラーク見学、今年は「て
いばらく」と江戸東京博物館に行く予定
です。私も今夏後に女性が部長として
来られたのはびっくりでした。

松井 喬 高四回
今春少々体調をくずしましたが、現在
はそれなりの老後を送っております。

山崎 鏡子 高四回
お陰様で元気に八十歳を迎えます。

川島 次郎 高五回
近年体調がすぐれず、いつも、生命な
りけり、という想いで参加しています。
皆様にお会いする楽しみに盛衰を期待し
て出席します。

小原 賢治 高六回
卒業後六十年近く経ちますが、初めて
参加します。開催時間が適切であること
と、会のご案内が何やそれそう雰囲気
を感じさせていただきます。参加してみようかな
と思いました。

橋山 高昭 高十四回
古希を迎えましたが、ホケ防止と小遣
い欲しさに、週一日臨床試験、臨床研究
の審査事務局をやっています。

福田 美代子 高十四回
私方、中位の元気で、山登り等を楽し
んでいます。2020年の東京オリンピック
まで、何とか頑張りたいと思っ
ています。家庭菜園で今年は、ほとんどの
野菜は自給自足です。

天方 信久 高十六回
毎回家内風呂有難う。本年も残念なが
ら欠席です。体調は少しずつ回復してい
ますが、妻の介護もあり残念です。年会
費は別途振込します。

美濃部 功司 高十六回
十一月八日から夢を追って海外へ、
Tiger of Fire

渡辺 明子 高十六回
残念ですが、土曜日は最も大切な日で
すので向えません。患者さんが休日の方
が多いのです。

朝比奈 豊 高十八回
東京五輪実現には中山会長のお力も
あったと思います。仕事と重なって出席出
来ませんが、ご盛衰をお祈りいたします。

坂井 吉男 高十九回
昨年初めて出席させていただきました。
小人数の会と思つていましたが、七十名超
の方々の出席で驚きました。高校時代仲
の良い人間だけの付き合いでしたが、なぜ
か会話の無かった同級生とも連絡感を感
じました。

赤堀 肇紀 高二十回
当日は小社の会議日となつてしまいます。
欠席します。種々のお知らせはメー

大橋 基宏 高七回

年相応に健康で過ごさせて頂いており
ます。当日、会社のOB会総会と重なり
ました。欠席申しさすご了承下さい。

塩崎 武良 高七回
最近ではゴルフに行くのも少なくなりま
した。年五回のコンペは参加しています。
お葬会には月一回程度参加しています。

小杉 慎二 高八回
一日、日を大切に頑張っております。

田中 義朗 高八回
シニアバスケットボールの大会に出席
し、全国を廻っております。

堀内 玲子 高八回
歳をとるにつれ高校時代がとも懐か
しくおもいだされ、翼北会に出席してみ
たいと強く思いますが、亡くなった主人
が掛西の同級生だったことから出席し
た頃を懐かしんでおります。

杉山 安宏 高九回
ますます平穏無事に毎日を過ごしてい
ます。毎月一回のゴルフ、毎週の自治会
開暮も楽しみながらです。

花島 美喜子 高九回
七十五歳後高齢者となりましたが、
もう一回と思つて免許証の更新をしまし
た。元気で慎重に故郷への道を走りた
いのと思ひます。

山本 由来子 高九回
後期高齢者の仲間入りです。日々の生
活をますますの住んで過ごしております。

石川 準次 高二十回
依然として時事通信社に勤務していま
す。来年リタイアに備え、五年前から、
中学、高校、大学で楽しんだサッカーの
演奏を三十五年ぶりに再開し特訓中です。

武田 陽子 高二十回
税理士事務所にて相続、贈与の仕事
を三十八年になります。私は楽業師です。

榎松 正記 高二十八回
いつもご連絡有難うございます。
富士山世界文化遺産登録しやりました。

木村 延崇 高四十四回
今年で四十歳、結婚十周年、三児の父
と節目の年、四十に近づくとほろ
ほろ涙が流れますが、まだまだ頑張りたい
と思っております。

遠藤 信二 中三十四回

雑賀 馨 中三十四回

鈴木 善則 中三十四回

村松 一郎 中三十六回

荒井 撫 中三十八回

兵藤 哲夫 高十回

高十回関東地区同級会を毎年やつてお
ります。来年はスケジュール合わせると
幸いです。

村田 繁 高十回
残念ながら妻の介護の日々。

石川 嘉延 高十一回
生憎、大阪東大会創立100周年記念
会同時に開催され、そちらへの出席
既に約束してしまつておりますので、誠に
残念かつ申し訳ありませんが「欠席」で
す。近況としては週一回三島の日本国際
関係学部で3科目講義を担当する(一際
におけない陋居)を目指して元気でやつ
ております。

石山 征二 高十一回
何時もお世話になります。幹事の皆様
にお礼申し上げます。今般会時、写真撮
影会があり出席出来ません。申し訳ござ
いませぬ。

澤崎 喜代子 高十一回
当日地元(迎子)での合唱祭があり、
係りの仕事もあって抜けられせん。元氣
ですので皆様によろしく。十二月二十八
日はオヘアシティコンサートホールで「第
九」を歌います。

中山 秀彦 高十一回
連日早朝ソフトボールのヒッチング
(100球)練習を健康維持のため、続け
ています。

野末 榮一 高十一回
地元の祭りでヤキソバ屋をやつていま
す。それにしては気分は屋敷です。

近藤 隆彦 高十二回
九約があり調整つかず申し訳ありませ
ぬ。盛衰を祈ります。

柴山 元二 中四十四回

小池 桂 中四十二回

仲田 園芳 高三回

秋山 尚 高三回

石井 淳二 高三回

原 隆男 高四回

糸田 定彦 高五回

松本 敏男 高六回

酒井 偉雄 高九回

三浦 勲 高九回

松下 克己 高十一回

松田 吏 高十二回

天野 勝 高十六回

計報

計報